

令和8年度 緑泉寮 運営指針

【コンセプト】

“Be You”

自分になろう
in 阿賀町

【運営指針】

緑泉寮は、
高校生が「何者かになろうとしなくていい」状態で、
安心して“自分になる”ための生活の場である。

この寮は、
生徒を急いで社会に合わせる場所ではなく、
安心な生活と出会いの中で、
自分になる準備をする場所である。

【運営目標】

1 | 安全で快適な生活環境の提供

【目的】

寮生が日々の生活で不安を感じることなく、安心して過ごせる生活基盤を確保する。

【運営の考え方】

建物・設備・送迎の安全は、寮生が自分自身に向き合うための前提条件である。
物理的な不安を最小限に抑えることで、心を別のことに使える状態をつくる。

【到達イメージ】

- ・清潔で安全な居室・共有スペースが維持されている
- ・設備不良や危険箇所が早期に発見・対応されている
- ・送迎において安全運転と法令遵守が徹底されている
- ・寮が「安心して帰ってこられる場所」として機能している

【Be You 的意味】

👉 まずは「安心して存在していい」状態が守られている

2 | 心身の健康維持と増進

【目的】

寮生が心や身体の調子の変化を前提に、安心して生活できる状態をつくる。

【運営の考え方】

健康とは、常に元気であることではない。
気分や体調の波があっても、それを否定されず、言葉にできることを大切にする。
変化は管理対象ではなく、対話や支援につながるサインとして扱う。

【到達イメージ】

- ・体調や気持ちの変化を言葉にできる雰囲気がある
- ・不調が「問題」ではなく「共有できる状態」として扱われている
- ・必要に応じて適切な支援につながる体制が整っている

【Be You 的意味】

👉 無理をしなくても、壊れずに自分の状態でいられる

3 | 自立した生活能力の育成

【目的】

寮生が自分の生活について理由を持って選び、引き受けられる力を育てる。

【運営の考え方】

自立とは「一人でできること」ではなく、判断し、選び、失敗し、修正していく力である。規則は守るためのものではなく、話し合えるものとして扱う。

【到達イメージ】

- ・生活ルールや背景を寮生が理解している
- ・「決められたから」ではなく「自分で選んだ」が増えている
- ・失敗が責められず、修正可能な経験として扱われている

【Be You 的意味】

👉 自分の人生を「選んでいる感覚」が育っている

4 | 多様な価値観との共生

【目的】

寮内外の他者との違いに触れ、感謝する・感謝される経験を通じて、前向きな関係性を築いている。

【運営の考え方】

共生とは「みんな仲良くすること」ではなく、違いがあるまま関係を続けられることである。感謝は強要せず、関係の中で自然に育つ力（感謝力）として大切にする。

【到達イメージ】

- ・違いが摩擦ではなく学びとして扱われている
- ・合わない相手を排除せず、距離を取る選択も尊重され、敬意が保たれている
- ・「ありがとう」「助かった」が実感を伴って交わされている
- ・感謝される経験から「ここにいていい」という感覚が育っている
- ・衝突後も関係性が断ち切れず、関係性が更新されている

【Be You 的意味】

👉 他者との違いの中で、自分が誰かに与え・与えられているものに気づける

5 | 社会貢献と地域活性化

【目的】

阿賀町での暮らしを通じて、社会との関わり方や自分の関心に気づく。

【運営の考え方】

地域活動は成果を出す場ではなく、
人との出会いや体験を通じて自分を知る機会である。
阿賀町の距離の近さと関係性の濃さを学びの資源として活かす。

【到達イメージ】

- ・自然や暮らし、人との関わりを通じて自分の反応に気づいている
- ・地域活動が自己理解につながっている
- ・地域を「やらされる場」ではなく「関わり続けられる存在」として捉えている

【Be You 的意味】

👉 社会の中で「自分はどうかいたい」を試せている